

メコン河流域の開発、環境、生活、自然、援助を考える

フォーラム Mekong

メコン河¹本流では、上流の中国でここ 20 年間に 6 つのダムが完成しています。これらのダム運転開始以降、下流では今までにない水位変動が頻繁に観測され、メコン河の自然と流域の人びとの暮らしに大きな負の影響を及ぼしています。中国はメコンを国内河川と見做し、下流国と協議をせずに独自の開発を続けてきました。

今回翻訳でご紹介するのは、2013 年末から甚大な被害を出しているメコン河の水位変動に関するタイからの報告です。報告自体が断っているように、流域 NGO とタイの市民グループが独自で行ったこの調査は、流域をカバーするものではなく、全体の被害は未だに明らかになっていません。各国の政府機関による詳細な調査と国家間の情報共有、それに基づいた対策の立案が喫緊の課題ですが、未だに情報収集が行われる兆しすらありません。

一連の水位異常の原因には気候変動も考えられますが、報告にあるように中国のダムの影響が否定できない状況です。しかし、自然現象と中国のダムの影響を区別するための基本的な情報は一般に開示されていません。流域にはメコンの持続的開発を目的とした調整機関で下流 4 か国が加盟するメコン河委員会 (MRC)²がありますが、中国とビルマ (ミャンマー) は加盟国ではありません。メコン河の変動について MRC は中国からの情報を受け身で待つような態度をとり続け、タイの市民から強い批判を受けています。流域の市民社会も、中国政府だけでなく MRC に対しても情報公開と説明責任を果たすよう様々な働きかけを行っています。

メコン河の流域では今、環境が激変しているだけでなく国家間の協力関係もリスクにさらされていると言えるでしょう。昨年、下流のカンボジア、ベトナムが建設に強い懸念を示しているにもかかわらず、ラオスは自国のメコン河本流部分でサイヤブリダムの建設を始めました。開発資本はタイの民間から提供されます。これに関しては、流域国の一部から MRC のドナー国である日本政府に対して、環境影響調査のやり直しに対する支援を求める声も上がっていました。メコン河の普遍的価値を守るとともに、水とそこから派生する様々な自然資源の利用を巡る問題が地域の政治的安定を脅かさないよう、科学的な調査と対話を日本が積極的に支援することが期待されています。

レポート：メコン河の変動、下流の損害の責任を誰がとるのか？

モントリー・チャンタウォン (NGO, 生態系回復と地域連合を目指すプロジェクト³)

ここ三か月のメコン河の水位は何度も変動を繰り返し、そのたびにメコン河流域のコミュニティに甚大な被害をもたらしている。それだけではなく、誰がこの数えきれない損害

¹ 中国でメコン河は瀾滄江と呼ばれている。

² 流域の持続的開発のために結成された国家間機関。加盟国はタイ、ラオス、カンボジア、ベトナム。中国とビルマ (ミャンマー) は「対話パートナー」として会議に出席し、特定の地点での水位情報を提供している。初代事務局長は日本人だった。略称は MRC。

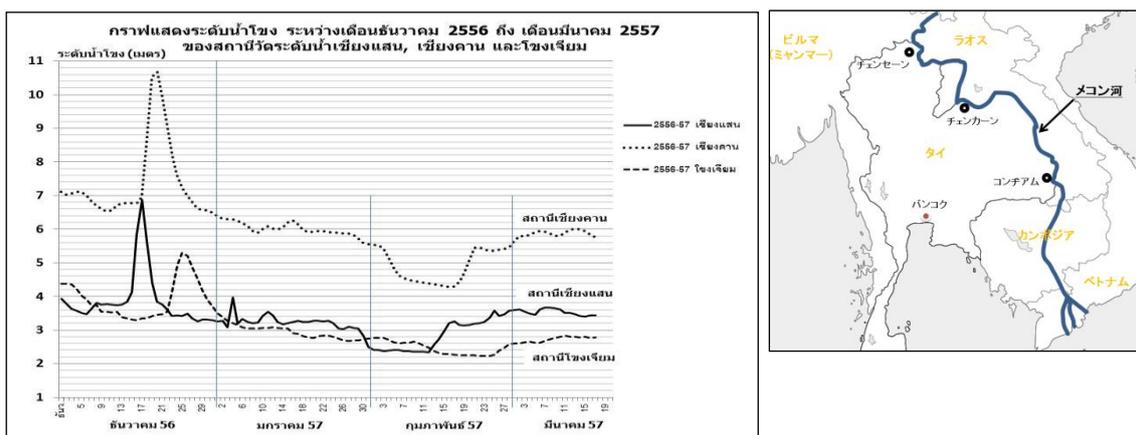
³ 訳注：英語名は、Towards Ecological Recovery and Regional Alliance (TERRA)。メコン河の環境問題に取り組むため結成された NGO。タイ、バンコクに本拠地を置き、メコン河流域各国で 20 年の活動実績を持つ。

に対して責任を取るのか、という結論の出ない問題を住民にもたらしめている。

2013年12月より、メコン河は不自然な水位変動を繰り返している。(北部、チェンライ県) チェンセーン郡と(東北部、ルーイ県) チェンカーン郡の計測地点では、たった二・三日の間に3mもの水位変動が記録された。また、(東北部、ウボンラチャタニ県) コンヂアム郡では2mの変動があった。これは、北部チェンライ県からメコン河沿いの東北タイ7県の生態系と川沿いの人びとの経済活動に甚大な被害をもたらしている。この現象に対し中国政府は、これが上流中国国内に既に完成した6つのメコン河本流ダム⁴の放水に関連しているのか否か、通告や声明を出すこともなく沈黙を続けている。

その後、2014年の1月末から2月中旬まで、メコン河下流域各国は、再びメコン河の変動にみまわれている。これは中国が修理でダムの水門を閉じたため⁵、メコン河の水位は下流で急激に下降した。チェンセーン、チェンカーン、コンヂアムの各測定所では、平均で1mの変動があった。現在(2014年1月17日)、水位は再び上昇に転じ、通常の1月下旬の水位よりも高くなる傾向を見せている。これは次のグラフに現れている。

2013年12月～2014年3月のメコン河の水位を表したグラフ
(メコン河委員会のデータより)



訳注：縦軸はメコン河の水位（単位：メートル）、横軸は月日
(チェンセーン(直線)、チェンカーン(点線)、コンヂアム(破線))

生態系回復と地域連合を目指すプロジェクトと東北タイ7県住民ネットワークは、状況を追跡し初期影響調査を行った。2013年12月の水位上昇による被害では、ノンカイ県：バーンモー、ムアンミー、パコー、ピエンクックの各(タンボン)行政区、ガラシン県：ホーカム、カischer、ブンクラ、ヨーククワーンの各行政区、ムクダハン県：ポンカーム行政区、アムナートチャルーン県：ヨークサーン、チャヌマーンの各行政区で漁業や河

4 中国は1993年からメコン河本流でダム建設を開始し既に6基のダムが完成している。この20年でダムの発電可能量は1万5,600メガワットに上り、巨大な貯水池は総量412億400万立方mになる。これは、中国がメコン河上流部分の水を特に乾季において95%管理できることを示す。

5 訳注：タイ港湾局ノンカイ県支部発行の地方行政機関への告知による。修理のためダム水門を閉鎖し15日間メコン河の水位が下がる旨、中国の政府機関から通知があったという(筆者からの回答。関連書類の発行日、中国の政府機関名は不明)。

岸での農業、川での養殖を営む 4 県 158 人に対してインタビューを行った。漁業に従事する住民の多くはメコン河岸での農業も並行して営んでいる。



(左) 2013 年 12 月、洪水にあったブンガーン県ムアン郡ホーカム行政区のメコン河の河岸畑作
(写真：チンタナー・カセーンソムバット、2013 年 12 月 20 日撮影)

損害総額はおよそ 714 万 3,475 バーツ⁶と見積もられ、調査の結果は、次のように分類された。

1. メコン河の水位変動の特徴

2013 年 12 月 16～23 日、ルーイ県チェンカーン郡でメコン河は連続で三日間、0.5～1 メートルの割合で水位上昇を続け、最大で 1.5～2.5 メートル上昇した（河岸の柳のような樹木、船をつなぎとめておく棹、川の中の航行用標識から目測）。その後、12 月 26～31 日



には元の水位に戻った。メコン河が通常の水位まで戻るのに約 10 日間かかったことになる。この間、メコン河の流れは通常よりも強く、波が立ち、倒木（切り出したような材、根の付いたままの樹木）、多くのゴミが流れてきて水には油が混じり濁っていた。

メコン河委員会（MRC）のデータによると、1967 年から 1992 年まで（中国のダム建設前）のチェンカーンでの 12 月の水位平均値は 5.31m でしかないにもかかわらず、2013 年 12 月 20 日の最高水位は 10.68m、流量は 9,024 立方 m/秒もあった。



(左) ナコンパノム県タートパノム郡ブラグラートタウン行政区のピーナツ畑。2013 年 12 月、一晩で水に浸かった。(写真：モントリー・チャンタウオン)

⁶ 1 バーツ約 3.2 円（2014 年 3～4 月）。

2. 漁業被害

漁業被害についての初期影響調査は漁業に従事する 115 人を対象とした。被害は漁具および漁獲収入の損失という 2 種類があることが明らかとなった。漁業被害額は 38 万バーツであった。急速な水流に流された漁具は、船、刺し網、釣り具、紐、船の船外機、また、これとは別に船外機が水に浸かり、修理を必要としたものの総額は 22 万バーツに上っている。

通常年の同じ時期に比べた魚の販売収入の減少幅は 50～80%に及んだ。十日間の異常な水位変動により失われた収入は約 16 万バーツで、その時期に失われた漁獲物は、(ドジョウの仲間の) *Botia modesta* をはじめとして、(メコン流域に生息するナマズ) *Pangasius* 科の魚、コイ科の魚など 14 種が確認されている。



ナコンパノム県で見られたメコン河の異常水位と早い流れは、異常のあった期間中漁師に 24 時間休みない警戒を強いた上、漁業も不可能とした
(写真：モントリー・チャンタウン、2013 年 12 月 22 日)

3. メコン河岸畑作⁷の被害



114 名を対象とした調査で、水位の異常で畑作従事者が受けた被害は、(無駄になった) 投資と農作物の販売で得られたはずの収入の二種類がみられた。これには、各世帯の自家消費分の損害額は含んでいない。

(左) 完全に再投資しなければならなくなったチャリン・カムコーンさんの畑。ブンカーン県ブンクラーク郡ブンクラーク行政区 (写真モントリー・チャンタウン、2014 年 3 月 8 日)

⁷ 訳注：メコン河流域では、乾季に大きく水位を下げる川岸を利用して畑作が行われてきた。この生業は、ダム建設による水位変動の影響を大きく受ける。

114名の投資額は34万6,350バーツに上った。支払の内訳は、タネや苗、肥料、労賃で、加えて、急な増水で浸水した畑で使用していた揚水ポンプの修理代も含まれる。損害を受けた野菜は20種以上、菜の花、キャベツ、玉ねぎ、にんにく、空芯菜、コリアンダー、落花生、サツマイモ、カボチャ、トウモロコシ、長インゲン等である。一部住民は、既に暑気に入り気温が上がって12月よりも生育状況は悪くなるのを知ってはいるが、水位が下がった後に再び栽培を始めている。農作物販売に対する被害の総額はまだ算出できない状況にある。

4. メコン河での生簀（いけす）養殖場の被害

被害はノンカイ県バーンモー、ムアンミー、バコーの行政区で養殖を行っている人たちに多く見られた。合計43名を対象とした調査では、次の3つのケースが見られた。(1) 魚がショックを起こして死んだために稚魚代と餌代の投資が無駄になり、販売も出来なかった、(2) 魚は死ななくとも生育にいつもより時間がかかり、労働力、餌代、薬代、電気代、栄養剤などの投下で費用が余計に掛かった、(3) 生簀自体が流木で枠が壊れたり網が破けたりしたため、修理が必要となった。

一番大きな被害を出したのは、第一のケースである。濁って水質が悪く、加えて流れの速い水により、魚は酸素不足となりショックで死んだ。43名の養殖業者は約400の生簀を所有し二代の魚つまり二週間養殖した魚と二か月養殖したものがいたが、その20%が死んだ(平均すると、生簀ごとに約500匹) 養殖業者の損害総額は、641万7,125バーツに上った(この中には稚魚代と餌代、初期投資額341万7,125バーツを含む)。



(左) 生簀の養殖魚。2013年12月19～20日のメコン河での異常な水位変動の間に死んだ。ノンカイ県シーチェンマイ郡。(ノンカイ・ニュース、NC News online 2013年12月23日より)

5. その他の被害

メコン河に依存しているその他のさまざまな活動については、まだ数値的な被害が算定されていない。例えば、郡や村が設置している大型の上水用の揚水ポンプだ。多くの場所で二・三日、川から水道用水をくみ上げることができなかった他、ガラシン県ブンクラー郡ブンクラー行政区のように、水位が下がった後にポンプ修理が必要になったところもある。

その他の損害で重要なものの一つは、観光業への被害である。毎年12月から翌年4月ま

でメコン河の水位が下がると、早瀬や岩場、砂浜が数多く現れ観光地として賑わい、地域の重要な収入源となる。この収入が失われたのである。ルーイ県チェンカーン郡チェンカーン行政区ノイ村のクットクー早瀬周辺は、50 ライ（8 ヘクタール）もの岩場と砂浜が出現する。周辺の住民はそこで観光客向けに食品を販売し、その収益は一帯で一日数万バーツに上る。早瀬はまた、タイ側とメコン河を国境とする対岸のラオス側の住民にとり重要な漁場でもある。現在、メコンの水位はまだ高い状況にあり、住民は（この乾季の）収入を得る機会をほぼ失ったに等しい。



ルーイ県チェンカーン郡メコン河のクットクー早瀬。乾季の重要な観光地だが、水位が高く岩場や砂浜は水没したまま。地域住民はそこでの経済活動が出来ず、大きな損害を受けている。

（写真：モントリー・チャンタウン、2014年1月13日）

まとめ：責任は誰が？

現在まで続く今回の水位の異常について、6か国を流れ6,000万人を養うメコン河で、私たちが調査できた部分のごく一部でしかない。今に至ってもメコン河の問題を扱う責任のあるはずのMRCは、水位の異常な上昇について明確な情報を公にしていない。

MRCは2013年12月のプレスリリースで、このような水位上昇はこの50年間で初めてのことと、上流のラオス、ビルマ（ミャンマー）、中国で大雨が降ったために水位が上昇し、洪水になったとしている⁸。また、中国のダムの不規則な放水による影響だという証拠が何もない、と述べている。

しかし、MRCの2014年3月7日のプレスリリースでは、強い水位上昇は、中国のダムの発電のための放水、または、大型船舶の運航のために必要な水位上昇かもしれないと述べ、中国政府関係者への問い合わせ中だと発表した⁹。MRCと中国政府が真摯に問題をとらえているなら、下流の市民に対して情報を公開し真実を明らかにすべきである。

⁸ Sudden peak in water levels caused by unusually high rainfall

<http://www.mrcmekong.org/news-and-events/news/sudden-peak-in-water-levels-caused-by-unusually-high-rainfall/>

⁹ Mekong water levels higher than average despite local concerns

<http://www.mrcmekong.org/news-and-events/news/mekong-water-levels-higher-than-average-despite-local-concerns/>



2013年12月にメコン河を流れた流木やゴミ。漁具や船に大きな被害を出した。

写真はガラシン県ブンクラーク郡ブンクラーク行政区。

(撮影：ニチョン・ポンチャン、2013年12月22日)

現在もメコン河流域の住民は、誰からの支えもなくこの問題に直面している。メコン河が流れるタイの8県で、10か所以上で被害が出ているが、今になってもタイの行政機関が対策どころか、何度も起きている被害を調べに来ることもない。それだけではなく、メコン河に起きる異常現象はだんだんとその発生頻度を上げ、かつ激しくなっている。住民は、この原因が上流中国に作られた6つのダムの影響だと信じている。そして今、その下流のラオス北部でサイヤブリ水力発電ダムが建設中である。2018年には完成予定で、メコン河への影響は更に増すことになる。

しかし、予想することが難しくないこの厄災に対し、タイ政府は怠慢な態度を決め込み、住民だけをこの変動にさらされる運命に直面させている。

心配なのは、ここ20年間に続けて起きているメコン河での奇妙な変動に、中国政府が今まで一度も責任を表明したことがない点だ。将来もこのようにメコン河が変動し続けるのであれば、(下流ラオスの)サイヤブリダムにも影響することだろう。これは、メコン河下流域の生態系と人びとの生活様式に二重の被害をもたらす。そもそも、ダムが計画されたように発電できないということも意味する。

MRCは、「ダムからの利益の分配」に焦点を当てる。ダムは管理可能で全てのステークホルダーを容認させることができると信じ、市民に生じた被害に対しては補償という形で利益を分配しようと「持続可能な水力発電ダム」を喧伝する。この考え方は、タイのメコン河流域住民から強い反発を受けている。なぜなら、人びとは本当の持続性とは「河を自由に流させること」であり、それこそが流域住民にとって最大の利益になると考えているからである。

2014年3月20日付 プラチャータイ¹⁰掲載(タイ語)

<http://prachatai.com/journal/2014/03/52363>

(翻訳メコン・ウォッチ)

¹⁰ タイのインターネットメディア。